

## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### 介護老人福祉施設での出会い

洗足学園中学校（川崎市高津区）

一年 田中 あずき

よだれをたらしているおじいちゃんがありました。爪の隙間が茶色になっているおばあちゃんがありました。車椅子にのっている人が多く、歩いている人も杖を使っている人がほとんどでした。どのおじいちゃんやおばあちゃんもここにこしながら私たちを見ていました。

「介護老人福祉施設」という母が勤める施設に私と私の二歳下の弟が行った時のことです。車椅子に乗っている人と話すのも初めてで、「かわいいね。こっちおいで。」と呼ばれ、近くに行くと、おばあちゃんに手をぎゅつと握られました。ぎゅつと握られすぎて「痛い。」と一瞬思いました。びっくりして母を見ましたが、他のおじいちゃんと話をしています。目の前のおばあちゃんは、ここにこしながらずっと私の手を握っています。「お母さん気づかないか

な。」と思ひながら、手を握られるままにしています。弟はおじいちゃんに抱っこされていくようにした。そのおじいちゃんもにこにこしていました。母ではなく、他の職員さんが、「泣かせちゃ駄目ですよ。」と笑ひながら通り過ぎていきました。

改めて周りを見るとほとんどのおじいちゃんやおばあちゃん、そして周りの職員さんも私たちを笑って見守っているようでした。先ほど「痛い。」と感じたその手にもおばあちゃんの手の温かさが伝わってきました。「かわいいね。かわいいね。」何度も何度もつぶやいてくれます。他のおばあちゃんが「こっちにもおいで。」と呼んでくれます。手を握りながら「何歳？」と質問がありました。答えようとしたけれど、すぐに「こんなに若い手をにぎったら若返るね。」と話していました。横を通る職員さんが「いつもと違ってずっとにこにこしていますね。子供の力は絶大ね。」と言って通り過ぎていきました。

初めて会ってびっくりしたり、痛いと思ったことが少し恥ずかしくなりました。初めて出会ったおばあちゃんの方がこんなにも私達を歓迎してくれているのと思いました。よだれや茶色の爪を見て躊躇してしまつた自分の心が少し恥ずかしくなりました。まだその人のことを私は何も知らなかつたのに、その人の見目で判断しようとしていました。見た目では何も分からないのに。握っている手の温かさや笑顔が私を少しずつ安心させてくれました。その人のことを知るとより身近に感じます。その時見かけだけではなく、いろんな人のことを深く知るようにしたいなと思いました。見かけや他の人からの評判ではなく、自分自身がいろんな人と関わっていききたいと思いました。

福祉という特別な人が対象になっている気持ちになります。でも手をつないだおばあちゃんのように、私はその人のことを知ることから始めたいと思いました。どんなことが好きなのだろう、どんな風に今感じているのだろう。

それから母が忙しく、母の職場には最近行けていません。手をつないだおばあちゃんは元気に暮らしているようです。また会いに行きたいです。あのおばあちゃんの笑顔や手の温かさがなつかしくなります。

